

# 財界カッポス

情報を先取り、タブーに挑戦

関連図で解説

## 参院選、身内の暗闘、6月号

2022年

**自民党** 一気呵成の長谷川岳、船橋利実の試される本気度  
**立憲民主党** 目減りした〆コップの中身、を徳永、石川で奪い合い

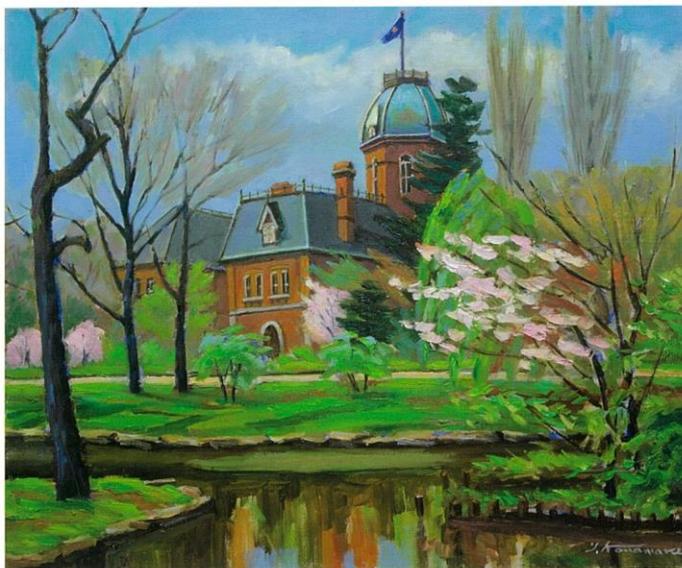
3年半で全国49店舗

#C-pla

急成長!! 帯広発・ガチャガチャ専門店のヒ・ミ・ツ

異色対談 橋本幸道開発局長×伊藤亜由美クリエイティブオフィスキュー社長  
北海道観光振興機構 何があった!? 小磯修二会長が1期で退任へ  
「ど冷えもん」は1年で250台 次世代自販機が道内でも増殖中!  
北海道応援企画 2030年の北海道〆針路、**全33ページ**

会見拒否に不満、球団が新庄カメラに…  
**試合別視聴率公開ノテレビ局**  
**BIG BOSS 狂騒曲の顛末**



昭和三十九年三月三日第三種郵便物認可  
令和四年五月十五日発行 第六十卷 第六号(毎月十五日発行)



「小樽なるど屋」  
で1000台設置

国内で自動販売機を製造しているメーカーは現在2社しかない。「サンデンリテールシステム」と「富士電機」だ。  
サンデンは21年2月にマルチストック式冷凍自販機「ど冷えもん」を発売。毎日のように問い合わせがくるという。設置台数は現在、全国で3



000台。そのうち道内が2500台を占める。  
「ど冷えもん」はタッチパネルが搭載され、管理者も在庫管理や消費期限管理などが簡単に設定できます」と、サンデンの北海道支社長は話す。  
小樽市の「THE BOX」は、昨年5月にど冷えもんのベンダー事業を開始。1番人気はグループ会社が運営する「小樽なるど屋」名物の「若鶏半身揚げ」や

「ど冷えもん」は1年で250台  
次世代自販機が道内でも増殖中



北海道経済センターに設置された高機能自販機「MMV」

自動販売機で買える商品のバリエーションが一気に広がっている。中でも増えているのは食品。きっかけは冷凍・冷蔵食品を扱える自販機の登場だ。国内メーカーの2社に道内の事情について聞いた。

「ザンギ」の自販機だ。揚げたてに近い品質が人気を博している。その他にもさまざまな食品をど冷えもんで販売。店頭以外にも「箱市場」という自販機を並べたスポットを展開している。実は、ど冷えもんの道内設置数の4割にあたる100台が、THE BOXに

「ザンギ」の自販機だ。揚げたてに近い品質が人気を博している。その他にもさまざまな食品をど冷えもんで販売。店頭以外にも「箱市場」という自販機を並べたスポットを展開している。実は、ど冷えもんの道内設置数の4割にあたる100台が、THE BOXに



自家製手造り「キムチ」にしん漬梅漬

よるもの。「全国的に見ても、この規模で冷凍自販機を展開している店は少ない。同機の国内シェアを小樽の企業が持っていることは誇らしいです」（山田雄太副社長）  
札幌商工会議所が入る北海道経済センター8階には、次世代型高機能自販機「MMV（マルチ・モジュール・ベンダー）」が1月末から設置された。同機の特長は、ど冷えもんに冷蔵や常温の温度帯の自販機を連結させることで、3温度帯での販売が可能になる。食料品の輸送などを手がける北海道物流開発が中心となって実現したものだ。現在、MMVではお菓子やアイスなどが販



OKASHI GAKUが販売しているショートケーキ缶の自販機

売されているが、食品だけでなく日用品なども販売できるといいます。と、北海道物流開発の佐藤忠部長は話す。

「多様な商品を販売できれば、MMVが小さなコンビニのような役割として利用できるようなものと思っています」と、北海道物流開発の佐藤忠部長は話す。

「ど冷えもん」は1年で250台  
次世代自販機が道内でも増殖中

「多様な商品を販売できれば、MMVが小さなコンビニのような役割として利用できるようなものと思っています」と、北海道物流開発の佐藤忠部長は話す。

せは多く、生産が追いつかないほど受注が入っているという。  
「正直、この商品が自販機で売れるのかなと思うものもあります。しかし、そういうお客様から2台目の発注が来る印象ですね。販売したい商品サンプルなどあればご相談に応じます」（富士電機の営業担当者）  
ススキノにある「KEYキキ屋（OKASHI GAKU）」では、缶詰に詰めたショートケーキを売るマルチ君が話題を集めている。昨年の7月、店舗オープンと同時に店頭を設置すると、10代女性を中心にSNSで、大バ

ズリ。多いときは1日400人が利用したという。運営会社GAKUの担当者「予想以上の反響でした。今、自販機の商品補充は1時間おきに行っています。また、KEYキキ缶は持ち運ぶ際に崩れる心配がない点も特長です。コンビニスイーツ以外の新しい選択を提案できたらと思います」と話した。  
GAKUでは東京や大阪などを含め、計8台を設置。海外も視野に事業を展開していく予定だ。

「自販機でキムチを売ったところ、店舗販売よりも売れました。これには私が驚きましたね。口コミやSNSを通して、おもしろい評判が広がったみたいですね。今まで店に入らなかつた方も買われています」（現在の工場の担当者）  
現在は、店頭以外にも市内4カ所にキムチの自販機を設置、店の営業時間外でも売れているという。今後さらには台数を増やしていく予定だ。

品販売の自販機に大きな期待を寄せる。  
前述のなないろ工房が自販機を導入したきっかけは、コロナの流行に伴い、利用者がリモート勤務になり、昼間に販売していた弁当が売れなくなつたため。その中で、非対面・非接触販売の需要が増加。自販機の設置が補助金の対象になることも追い風となり、ニーズが増えている。  
昨年6月の食品衛生法改正もプラスに働いた。保健所に営業届けを提出すれば、容器包装に入れた肉類や魚類を自販機でも販売可能になったためだ。（古沢）

財界さっぽろ

定期購読お届け日数変更のお知らせ

日本郵便のサービス変更に伴い、2021年10月より本誌のお届け日数が1日程度繰り下がります。詳しくは、日本郵便のホームページをご覧ください。ご不便をお掛け致しますが、何卒ご理解の程お願い申し上げます。

ご不明な点がございましたら、下記にご連絡ください。  
【財界さっぽろ総務部】  
(平日 9:00~17:00)  
☎011-521-5151  
E-mail koudoku@zaikaisapporo.co.jp